

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

1 学校紹介

本校は、JR 下総中山駅下車徒歩 7 分のところにある。周囲には大型ショッピングセンター、中小の工場、商店街もあり、大変にぎわっている。高層マンションが次々と建設されたため、児童数は年々増加の傾向にあったが、ここ数年間は減少傾向にある。

2 研究主題

自分の考えを豊かに表現できる子どもの育成

3 研究の概要

(1) 児童・生徒の実態と課題「全国学力・学習状況調査」の結果から

【国語】

○A問題、B問題とも全国平均、千葉県平均を上回っている。言語についての基礎的、基本的な知識、技能だけでなく、活用を必要とされるB問題の正答率も高い。

【算数】

○それぞれの正答率はA問題、B問題とも全国平均、千葉県平均を上回っている。計算の技能、数や図形についての知識・理解だけでなく、活用を必要とされるB問題の正答率も高い。

(2) 学力向上のための取組について

- ①意図的な協働の場、対話による学びを重視し、学力の向上を図っていききたい。
- ②児童の主体的・対話的で深い学びを実現するために、ディスカッションやグループワーク等を取り入れるなど、言語活動を工夫し、体験活動を充実させる。
- ③学力の向上に向けた、基礎・基本の確実な定着を図り、わかる授業の実践を行う。
- ④他者を尊重する態度の育成という観点からも、話をしっかり聞く態度をはじめとした学習ルールの構築と徹底を図る。
- ⑤ペア学習、グループ学習等他者との対話による活動を意図的に取り入れる。
- ⑥家庭学習の習慣化に結び付くよう、「家庭学習のすすめ」を保護者に配付し、学校と家庭で協働して学力向上に努める。
- ⑦学校図書館やコンピュータの活用を図り、情報収集能力、情報選択能力を高める。

(3) 加配教員(学習サポーターを含む)の活用について

- ①主に、算数科の充実を図るため、少人数指導、習熟度別指導、ティーム・ティーチング等、各学年や単元の実態に応じた指導形態での活用を行った。
- ②県の加配2人(学力向上推進事業加配1人)と市の加配1人、計3人の加配教員がおり低、中、高学年を一人ずつ担当している。

4 成果について

○国語科・算数科における校内研究に基づく学習指導の工夫において成果があった。さらに、意図的な協働の場、対話による学びを重視し、学力の向上を図っていききたい。